

農作物被害防止対策マニュアル

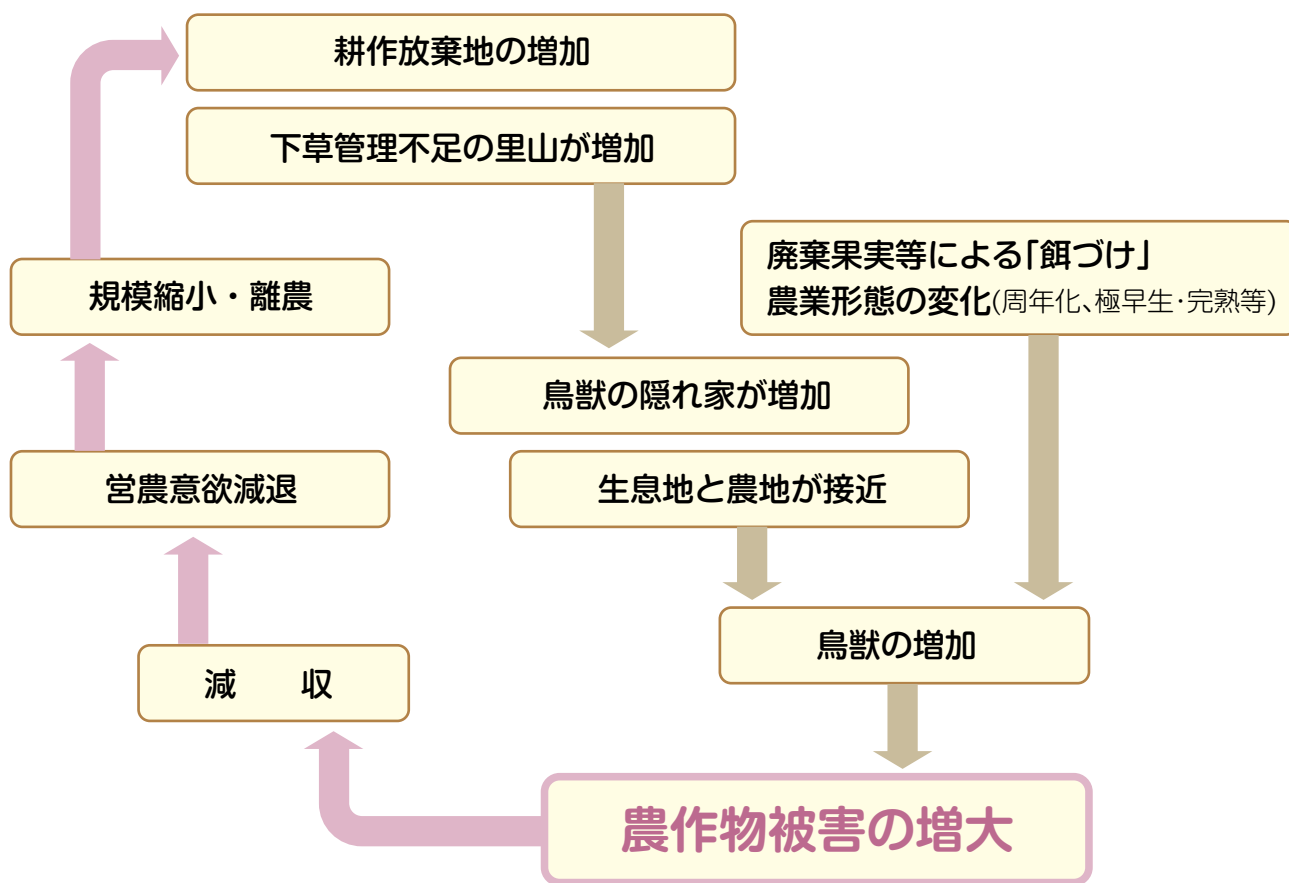
(イノシシ、アライグマ)



目 次

なぜ鳥獣被害が増えてきたのでしょうか	1
鳥獣被害の悪循環を断ち切るため	
増え方のイメージ	
海南市におけるイノシシの捕獲頭数	
被害軽減対策の基本	2
① 集落の環境整備	
隠れ家をなくす、エサ場をなくす	
② 農作物をまもる	
防護柵の設置	
③ 加害鳥獣を捕獲する	3
④ 獣種別の被害対策	
イノシシ	4
被害、生態と特徴	
①ワイヤーメッシュ	5
②電気柵	7
資材費のめやす	
アライグマ	8
外来特定生物、被害、生態と特徴	
①捕獲檻	
②電気柵	
アライグマとまぎらわしい動物の比較	9

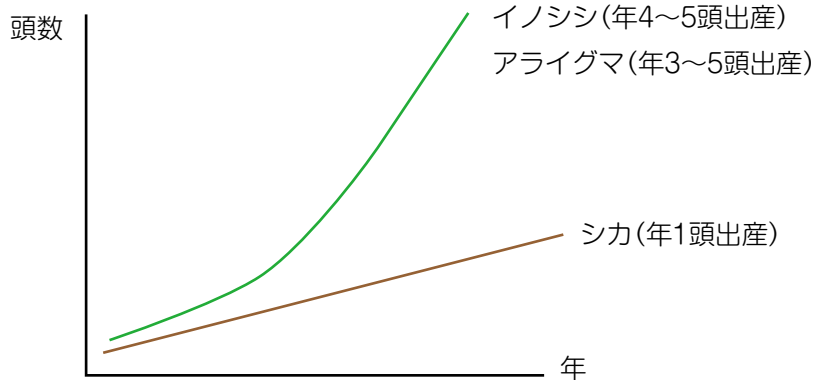
なぜ鳥獣被害が増えてきたのでしょうか。



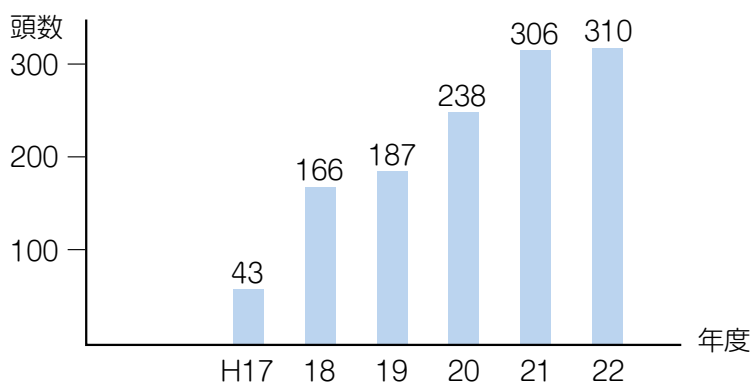
鳥獣被害の悪循環を断ち切るため

^{プラス}
個人+集落の力で、できることから始めましょう!

増え方のイメージ



海南市における イノシシの捕獲頭数 (狩猟期間を除く)



被害軽減対策の基本

① 集落の環境整備（イノシシ等の嫌がる環境をつくるのが第一歩）

○隠れ家をなくし見通しをよくしましょう（農地に近づけない）耕作放棄地や里山の草刈りをしましょう。

○エサ場をなくす（餌付けになることをしない）野生動物にとっての美味しいごちそうとなる放任果実や廃棄果実、二番穂（ヒコバエ）等を除去しましょう。



廃棄果実に群がるイノシシ

② 農作物をまもる

○囲う

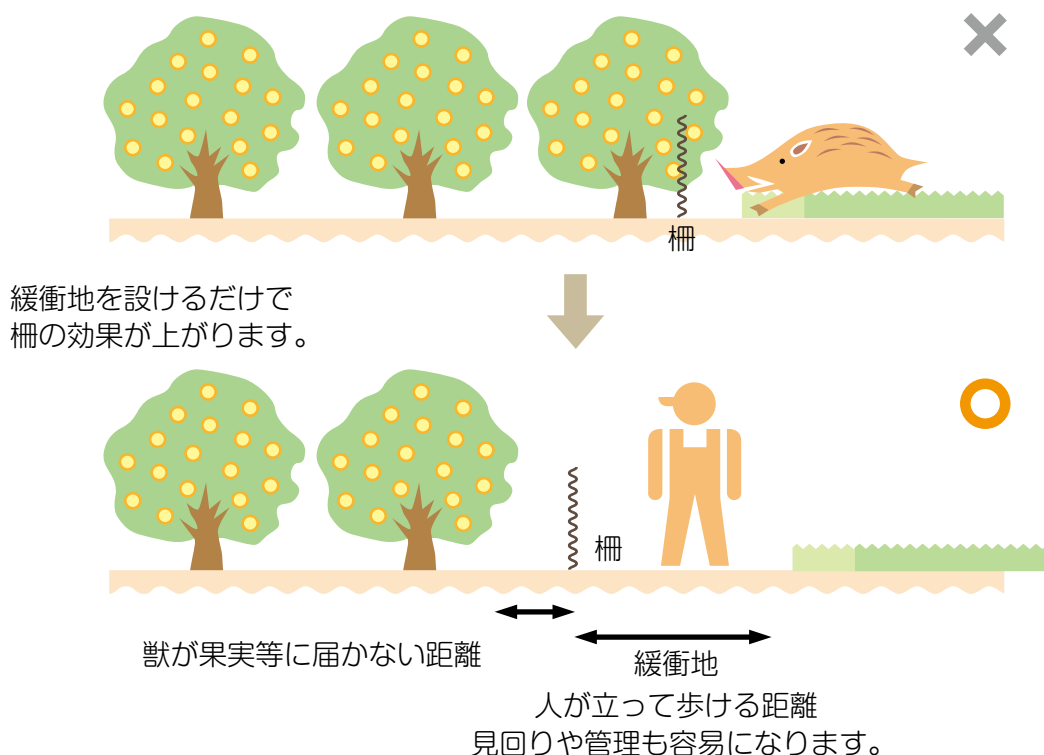
ワイヤーメッシュ、電気柵など防護柵の設置

柵を設置する際には、強度保持のため、獣に柵を押し倒されないような間隔で支柱を立てることや、傾斜に応じた柵の高さを維持することが大切です。

柵の設置で重要なのは、**柵の外から果実等に届かない距離を保つこと。届くと逆に餌付けになります。**（理想的には作付けを減らしてでも柵の周囲を人が立って歩ける距離）

また、柵の設置にあたっては、個人の土地境界線にとらわれない**集落単位での効果的な設置**をおすすめします。

獣が柵の外から果実等に届くと餌付けになります。



③ 加害鳥獣を捕獲する

加害獣は農地や里山の周辺に生息しており、一度農作物の味を覚えた鳥獣は、繰り返し農地に出没します。

被害軽減のためには、「捕獲檻」「くくりわな」等を利用し、農地周辺で加害個体を捕獲することが有効です。

※上記 ①・② を実行した上で ③ を行う

①有害鳥獣捕獲

＜野生鳥獣は鳥獣保護法で守られていますが、農作物に被害が出たときに市や県の許可を受けて捕獲できる制度、原則として狩猟免許取得者が従事すること＞

対象：狩猟鳥獣 49 種

（イノシシ、ニホンジカ、アライグマ、アナグマ、タヌキ、ハクビシン等、但し和歌山県ではツキノワグマを除く）

狩猟鳥獣以外 11 種（ニホンザル等）

期間：随時（狩猟期間以外）

②狩猟

＜狩猟免許取得者が狩猟期間に行うことができる制度＞

対象：狩猟鳥獣 49 種（但し和歌山県ではツキノワグマ、ウズラ、キジの雌、ヤマドリを除外）

（狩猟期間：11 月 15 日～2 月 15 日、イノシシ、ニホンジカは 11 月 1 日～3 月 15 日）

③特定外来生物法による防除実施計画に基づく捕獲

＜生態系に影響を及ぼすと指定された生物を積極的に駆除できる制度＞

対象：アライグマ

捕獲には**狩猟免許**と鳥獣保護法に基づく**許可**が必要なため、市、県の指導に従ってください。



捕獲されたイノシシ



深夜に活動するイノシシ

④ 獣種別の被害対策

イノシシ

被害

- ・ 水稻、野菜、果樹、タケノコなど多くの農作物を食害する。
- ・ 田畑、土手の掘り起こし、水稻の踏み荒らし被害も見られる。
- ・ 秋冬期にミカンや柿などの果実を食害、時には枝や幹を折る。
- ・ 1～7月にはタケノコを食害する。
- ・ 地中の小動物や植物の根を食べるため年中土を掘り荒らす。
- ・ 体のダニを取るため、ヌタ場で泥あびをしたり、樹木に体をすりつけたりする。



ヌタ場



イノシシによる温州ミカンの被害



樹木に体をすりつけた跡

生態と特徴

- 行 動** 人目のないところでは**基本的に昼行性**、人里では人間を避けるため夜行性を示す。
オスは単独行動、メスは子、姉妹と群れを作る。
- 生 息** 下生えの多い広葉樹林や竹林、カヤ、ススキなどの草地に生息する。
- 出 産** 一夫多妻性、満2歳で初産し以降毎年2～8頭（平均4.5頭）出産する。
- 寿 命** オス6歳、メス10歳程度。生まれて4ヶ月位までシマ模様ありウリボウと呼ばれる。
- 性 格** 極めて臆病で警戒心が強い、慣れた獣道では大胆、開けた場所では警戒して行動する。
- 学 習** 「一度覚えると忘れない」「進入に成功した仲間を模倣」など学習能力は高い。
- 視 覚** 視力は弱く青色のみ識別可能（青色を恐がることはない）。臭覚は鋭く犬と同じくらい。
- 能 力** 柵と地面に20 cm以上のすき間があれば掘ってくぐり抜ける。1.2m程度の跳躍力。
- 弱 点** 鼻先のみ電気柵の電気ショックを受ける。剛毛に覆われた体はショックを受けにくい。

もし、イノシシに出会ったら

- ◎普通、イノシシが人に出会えばイノシシの方から逃げるので、あわてる必要はないが、発情期（晩秋から冬）等で興奮状態にあたり、至近距離で突然であった場合は攻撃的になるので注意が必要。
- ◎急に走り出してイノシシを興奮させないこと。
- ◎後ろを向くと襲ってくることもあるのでなるべく背中を見せず、目を離さないこと。
- ◎ウリボウを見かけても、そばに親がいる可能性が高いので近づかないこと。
- ◎たてがみや尾を逆立てて威嚇している状態でなくても、シュー、カッカッカッ、クチャクチャクチャと威嚇音を出していたら特に気を付けること。
- ◎犬の散歩中にイノシシに出会い、イノシシが向かってきたら、飼い主、犬ともに危険になるため、犬を逃がすこと。

対 策

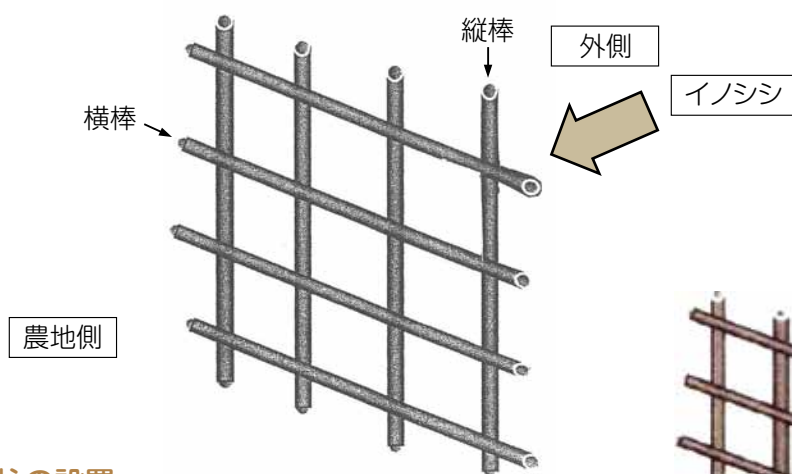
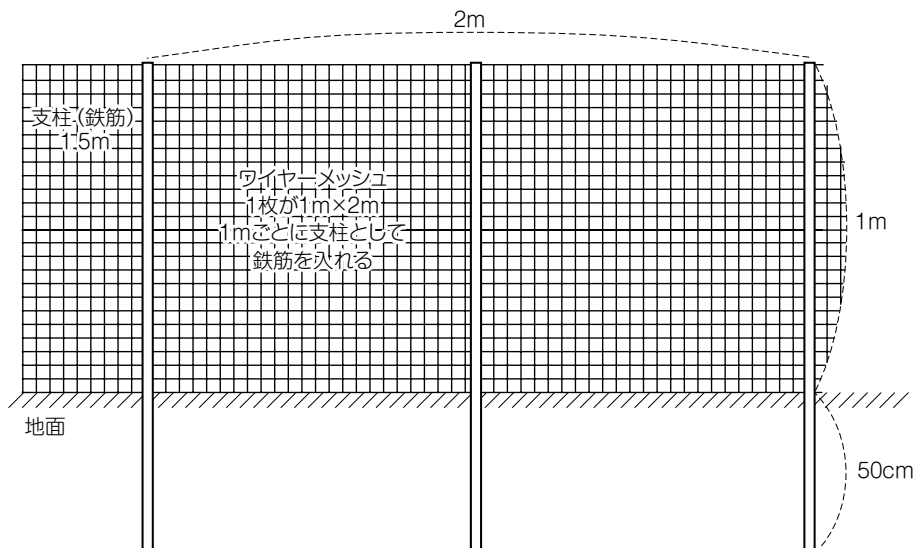
①ワイヤーメッシュ（溶接金網）

○特徴

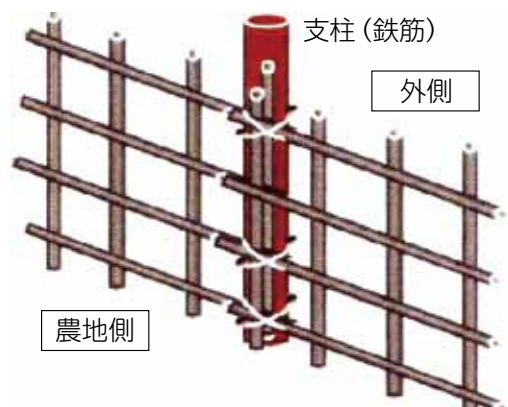
- ・電気柵より経費は高めであるが、維持管理が簡単で耐久性が高く大規模には向いている。

○設置のポイント（相手を知って正しく設置）

- ・設置、管理しやすいルートを選定する。
- ・イノシシが鼻を引っかけて持ち上げやすいので、接合部は重ね合わせて支柱と固定する。
- ・水路、溝、凹地もすき間をつくらない。
- ・幼獣の通り抜け防止のため10×10cmのメッシュが望ましいが、果樹園など傾斜地での設置の作業性を考慮すると15×15cmでもよい。
- ・イノシシは柵に沿って歩きながら入り口を探すので、必ず四方を囲む。
- ・内側から作物が見えないようにトタンなどの資材を組み合わせるとより効果が上がる。



イノシシは横棒をかねで引っ張り、縦棒を鼻で押す習性があるので溶接部がはがれないように**縦棒を外側に向けて**設置する。



○支柱の設置

（資材や立地条件により変わるが、概ね1m間隔）

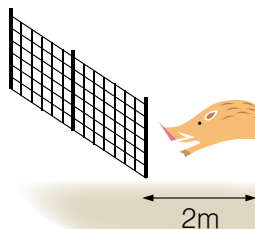
- ・ワイヤーメッシュの同士の縦棒を支柱に重ねる。
- ・ステンレス製の針金をたすき掛けにしっかりと固定する。

○地形と設置方法

- ・崖、山部地形

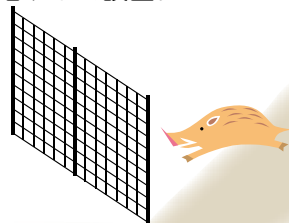
斜面下部

斜面から2 m以上離して設置。



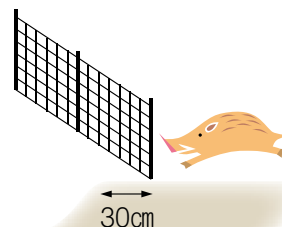
斜面尻

斜面尻は住み家になりやすいが地形上やむを得ない場合は高さを増やして設置。

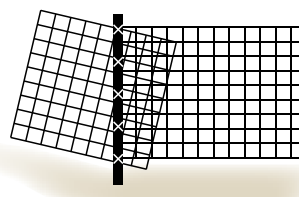
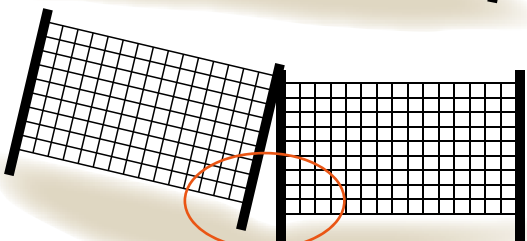
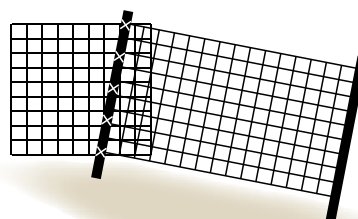
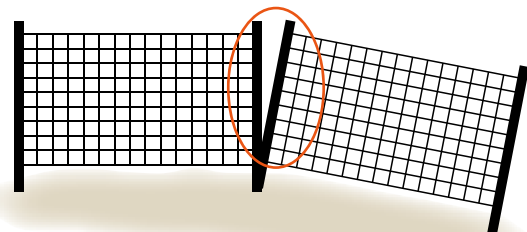


斜面上部

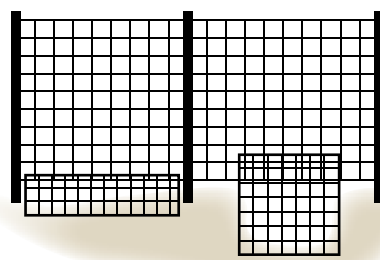
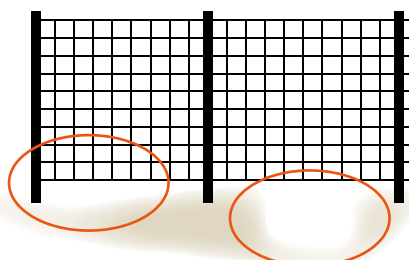
斜面の肩から30cm以上離して。斜面際は崩されやすい。



- ・傾斜地形（スキ間なくワイヤーメッシュを重ねる）



- ・溝、凹地形（端材の活用）



○ちょっとした工夫で効果的に

- ・忍び返し（跳び込み防止）

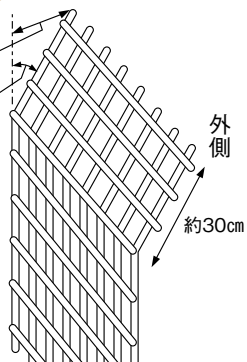
10cm程度外側へ出る

20℃～30℃

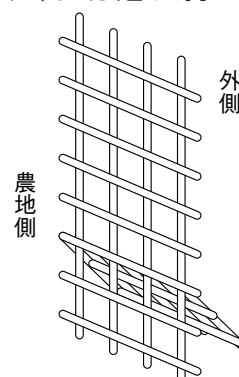
農地側

外側

約30cm



- ・スカート（もぐり込み、持ち上げ防止）



○メンテナンス

- ・定期点検を実施して、破損、隙間を調べて補修する。
- ・草が繁茂していると、イノシシが寄ってくるので、メッシュの外側の草刈りを行う。

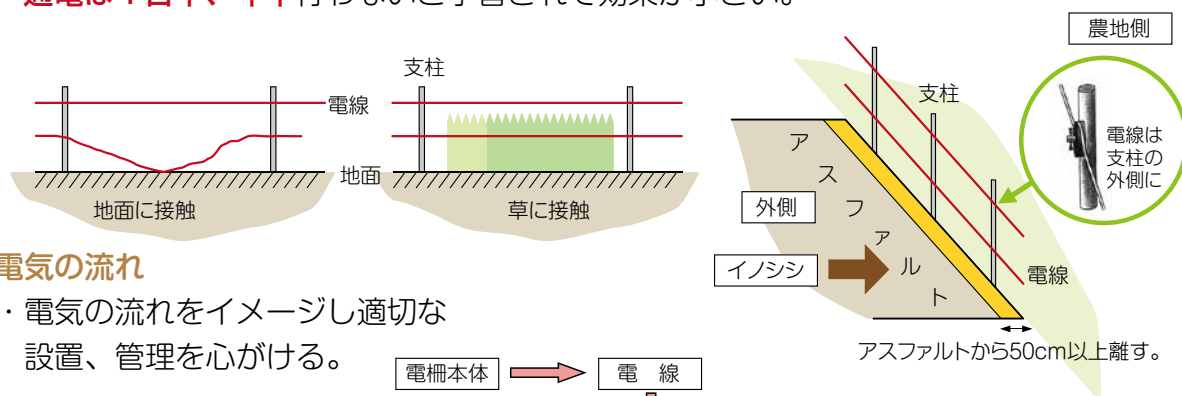
②電気柵（手入れがなければ「ただの柵」）

○特 徴

- ・ワイヤーメッシュと比べ設置が簡単で移動しやすく、小規模には向いているが、草刈りなどの管理点検が必要となる。

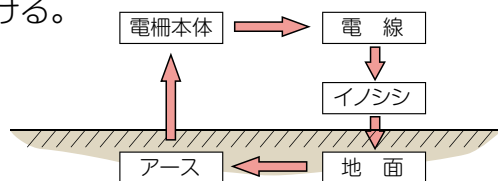
○設置のポイント

- ・電線はイノシシの鼻が当たる高さに設置する。（成獣は地面から40～50cm、幼獣は20cm程度の高さ）
- ・窪みなどの地形に応じて支柱の本数を増やす工夫をして張る。（電線の高さを維持する）
- ・アース棒は必ず電流の流れやすい湿った地層まで深く差し込む。
- ・電圧は3,500ボルトを下らないようにする。（漏電の多い雨の日に測定する）
- ・人の立ち入る場所に設置する場合で、交流100ボルト等の電源から引く場合、危険防止のため漏電遮断機を設置する。
- ・電気柵と容易に認識できるように危険表示を行う。
- ・イノシシが地面と電線に同時に触れないと感電しないので、アスファルトやコンクリートの上では効果が小さい。**アスファルトがある場合50cm以上離す。**
- ・**電線は支柱の外側（イノシシ側）**にくるように設置する。内側なら支柱を倒される。
- ・**通電は1日中、年中**行わないと学習されて効果が小さい。



○電気の流れ

- ・電気の流れをイメージし適切な設置、管理を心がける。



○メンテナンス

- ・草刈りを頻繁に行い、漏電により電圧が下がらないようにする。
- ・2週間に1回程度点検、強風後も点検し、断線や支柱の破損があれば修理する。

資材費のめやす（地形により変動あり）

資 材	参考経費：周囲500m(約1ha)に設置した場合		内 訳
ワイヤーメッシュ	222,500円程度	ワイヤーメッシュ 250枚	線径5mm、網目15cm、外寸1m×2m 470円程度／枚
		支柱(鉄筋) 500本	16mm鉄筋、長さ1.5m 210円程度／本
電 気 柵	156,000円程度		電気柵設備一式(2段張) (バッテリーを含む)

(JAながみね調べ)

アライグマ

特定外来生物

- ・もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすものを、特定外来生物として法律で指定しており、輸入、販売、飼育等が原則として禁止されている。
- ・アライグマは国内に既に定着して農作物に多くの被害が見られるため特定外来生物に指定され積極的に駆除することになっている。

被害

- ・雑食性ですべての農作物。
小型ほ乳類、鳥類、魚類、カエル、昆虫類等
広い食性。

(手で果肉をほじくり出して食べる)



アライグマによるスイカの食害
(田辺市ふるさと交流センター鈴木和男氏提供)

生態と特徴

行 動 本来、夜行性だが昼間でも目撃される。

生 息 竹やぶや樹林近くの水辺を好むが、市街地でも生息可能。寺社や廃屋を好んで住み家にする。なわばりがなく、餌の量に比例して個体数が増加する。

出 産 約2ヶ月の妊娠期間を経て4月頃に3～5頭出産。早くに子を失ったメスは夏～秋に再び出産。

寿 命 1歳で成熟するなど繁殖力は高く、寿命は野生で5年程度。

能 力 足指が長く器用で、木登りが得意。

対 策

①捕獲檻

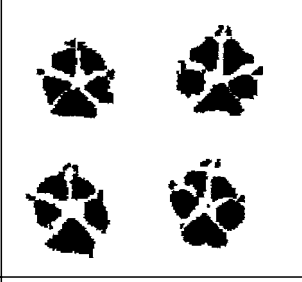
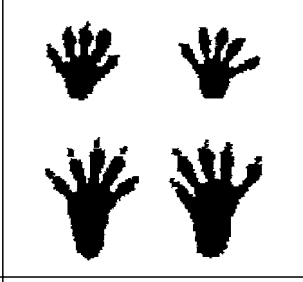
○設置のポイント

- ・アライグマは繁殖率が高いので出没が確認できれば早めに捕獲することが有効であり、1～5月の捕獲が重要となる。
- ・餌はキャラメル味のコーン菓子や揚げパン等がかかる。
- ・アライグマによく似たアナグマやタヌキがかかることがあり、**尾のシマ模様が特徴**。
- ・アライグマ以外の動物が檻に入ったら原則として放すこと。
- ・捕獲および処分については市役所に相談のこと。

②電気柵

- ・設置、メンテナンスはイノシシと同じ。
- ・ただし電線の高さは、地面から10cm間隔の3～4段張りで効果があるが、防風ネットと電気柵の組み合わせでも可能となる。

アライグマとまぎらわしい動物の比較

	ハクビシン	タヌキ	アライグマ	アナグマ
顔				
尾				
足跡				
体の特徴	・ 胴長50～60cm位 ・ 尾が長いのが特徴 ・ 指は5本で爪跡は分かりづらい	・ 胴長45～55cm位 ・ 尾がふさふさしている ・ 指は4本で全体に丸く猫に似ているが足跡爪跡ははっきりしている	・ 胴長60cm位 ・ 尾にシマ模様があるのが特徴 ・ 指は5本で爪が長く足跡の爪がはっきりしている	・ 胴長50～60cm位 ・ 尾が短い ・ 指は5本で爪が長い
被害の状況	・ 雑食性 ・ ブドウ ・ トウモロコシ 等	・ 雑食性 ・ イモ類 ・ マメ類 ・ トウモロコシ ・ カキ 等	・ 雑食性 ・ 果樹 ・ トウモロコシ ・ スイカ ・ 鶏 等	・ 雑食性 ・ イモ類 ・ マメ類 ・ カボチャ ・ トウモロコシ 等

